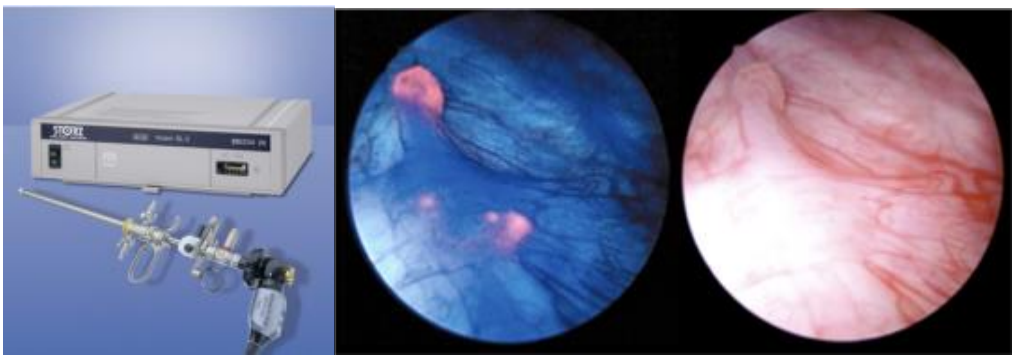
光力学診断（PDD）を用いた経尿道的膀胱腫瘍切除術

5-アミノレブリン酸（5-ALA）を経口投与すると、がん細胞は特異的に蛍光物質(PpIX)を過剰蓄積し、青色光をあてると赤色に観察できます。この光力学診断システムを用いると膀胱がんは赤色に蛍光発光し、手術用蛍光膀胱鏡で切除できます。従来の白色光源下では検出が難しかった微少な膀胱がんや平坦な上皮内癌をより高い精度で検出・切除でき、術後再発を減らすことが報告され、日本泌尿器学会のガイドラインでも推奨されています。当科では 2018 年からこの光力学診断システムを用いる経尿道的膀胱腫瘍切除術を導入しています。



Karl Storz Endoscopy のＨＰより引用